

# ふれあい新聞

第56号 平成12年10月1日(季刊) 田中野田町内会

## 第17回 田中野田夏まつりによせて

実行委員長 的場賢治

まず、8月7日に開催された第17回田中野田夏まつりが、盛況かつ無事に終わることができましたことを、お礼を申し上げます。

私は、今年4月から町内会で1組のお世話をさせていただいております。町内会の役割の中では厚生文化部で、夏まつりなどを担当とのことでしたが、5月末に夏まつりの会合があるまで、実行委員長の大役があるとは思っておりませんでした。夏まつりという町内のビッグイベントの実行委員長を、まだ右も左もわからないような者がしてもいいんだらうかとも思いましたが、町内でも毎年人選に苦労されているとのこと、思い切って引き受けることにしました。

さて、夏まつりの会合に出てみて、はじめのうちは同じ町内に住みながら、来られている方のほとんどがはじめての方ばかりで、名前を覚えるのがやっとでした。しかし、町内会長さんをはじめ子ども会、婦人部、老人会、体協などの方が積極的に発言され、昨年の問題点や今年はここに気をつけたいのでは、といった議論が活発に行われ、次第に形になっていきました。役割分担や段取りも、毎年多くの方がこういった準備の段階から参加されているのを反映して、スムーズに決まっていきました。特に子ども会の方は、子どもたちに少しでも良い思い出とし、残るようなものにしようという気持ちが感じられ、子ども会の他の行事との調整に苦労されていました。そして、このような努力の積み重ねが、次の世代へとつながっていると思います。

関係者の方々には仕事の忙しい中、また特にこの夏の暑期中、打ち合せや準備に時間を割いていただき、重ねてお礼を申し上げます。実行委員長としてほとんどお役に立てませんでした、このような町内の行事に参加させていただいてよかったですと思います。

来年もまたすばらしい夏まつりとなりますようお祈り申し上げます。

### お知らせ

本紙の特別号…写真で見る…「区画整理で生まれ変わった田中野田」を9月に刊行し、各家庭へ配布しました。先に町内の掲示板でお知らせしましたように、余部がありますので、ご入用の方は町内会長へ申し出てください。

## 初めての銭太鼓

(6年) 高橋 美保

私は、夏まつりで初めて銭太鼓をしました。見ているとむずかしそうでしたが、やっているうちにできるようになりました。自信まんまんだったけど、本番ではおとしそうになってドキッとしました。

練習は、正座をして足がしびれたけれど、合間のおやつを食べて、がんばりました。最初は、じまんでるほどへたでした。ほかの子がどんどん伸びていって、4年生よりレベルが低いかなと思って心配でした。ゆかたを着て練習した時は、正座をするのもむずかしかったです。

本番は、ステージに上がる時、笑いそうになったけれど、がまんしました。終わって思ったことは、とても良い経験になったということです。銭太鼓は奥が深いです。自分としては二重丸です。指導して下さってありがとうございました。

## 思い出の祭りだいこ

(6年) 松村 遼

ぼくは、夏まつりで祭りだいこを、去年と今年と2年やりました。去年の時は、初めてだったのできんちょうしてたたきました。今年は大だいこもたかせてもらいました。きんちょうしながらもがんばって、とてもうまくできました。

暑中練習したかがありました。これも毎日練習をみていただいた山上先生をはじめ、お父さんやお母さんたちのおかげだと思います。ありがとうございました。小学校生活最後の夏まつりは、いい思い出になりました。

## 御南学区民体育祭

— 田中野田 優勝 —

去る9月17日に行われた第7回御南学区民体育祭において、田中野田が初優勝した。また、応援の部でも優勝を飾り、ダブル優勝を果たした。田中野田にとっては学区誕生以来の快挙である。この栄光を皆さんと共に心から祝福したい。過去の成績は戸数の多い大きな町内、田中や今保に優勝を独占されていただけに感激もひとしお、やればできるという自信につながったことと思う。

何よりも素晴らしかったのは、団体競技種目において一致協力、団結の強さを遺憾なく発揮することができたことである。このことはただ運動面だけにとどまらず、今後の田中野田の充実発展のいしづえとなり、明るく住みよい町内を実現する大きな力となろう。参加の皆さんほんとに有難う。ご苦労様でした。

## 公園の片隅で

町内会副会長 小原 正行

厳しい夏の色もやや薄れ、秋の兆しが感じられるある日曜日の午後、曇りがちなせいもあってか、児童公園には幼児を連れた若いお母さん達が、三々五々集まって来たときの光景を紹介するものです。

この町内には、区画整理によって4か所に公園が出来、子育て中のお母さん達にとっては有難い環境となりました。

徳育がなおざりにされ、知育偏重の現代において、自分の子は伸々と育てたいと願っているお母さん達も多いことと思いますが、「伸々と」とは「自由奔放」にはないことを理解しておられるのだろうか？遊びに熱中する子供達の中には、樹木を折ったり、砂場に石やピンを入れたり、手洗場に砂を流したりと、枚挙にいとまがない。付添いのお母さん達はといえば、皆さんで話に夢中で、前述のようなことには気にもとめず、子供の安全にすら目が届かない有様で、遊具の取り合いで初めて子供の間に入るといった有様。平素自己中心で育てている子には、遊びのルールさえ身につけていない。このような事象は、戦後の核家族化が一因なのでしょう？

子供は親の背を見て育つと言われますが、幼いから判らないと思っていても、子供はしっかり親のすることを見ているものです。例えば、ごみが散らかってれば、片付けるといった何げない仕草が子供の心を動かし、何故人の捨てたごみをお母さんが拾っているのか、といった疑問が生まれ、これに正しく答えてあげるにより、公德心が育っていくもので、行動の伴わない言葉だけの教えは、容易に身につくものではないと、私は思います。

このことを実証してくれた母子が、前述のグループが帰ったあと、公園に来られた時は夕暮れも近かった時刻ですが、お母さんが散らばったごみを拾い、砂場のピンや石ころを片付け始めた時、その子(当然遊具で遊ぶと思った4才くらいの男の子)が、お母さんと一緒に行動したのです。この様子を見た時、立派な子育てのできている家庭のあることを見せてもらい、心の温まる思いでした。

公德心を育て、きれいな町づくりをめざし、行動に移そうではありませんか。

- ★★ 秋季クリーン作戦：10月1日(日曜日・午前8～10時) 各公園を中心に行われます。みんなで参加しましょう。★★
- ★★ 第17回国勢調査：10月1日現在で実施されます。調査票の配布と受け取りは9月23日(土)～10月9日(月)で、調査員がお宅へ伺いますので、ご協力をお願いします。★★
- ★★ 白鬚宮の秋まつり：10月14・15日(土・日)です。★★